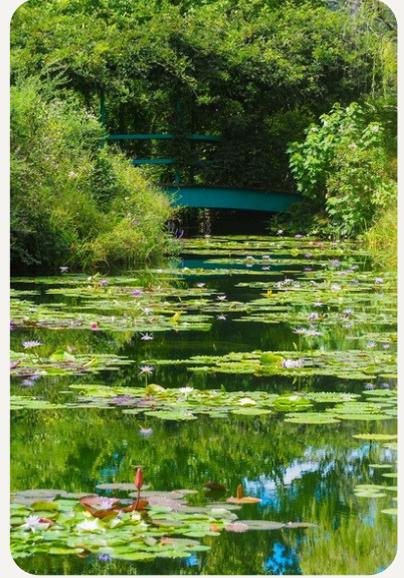
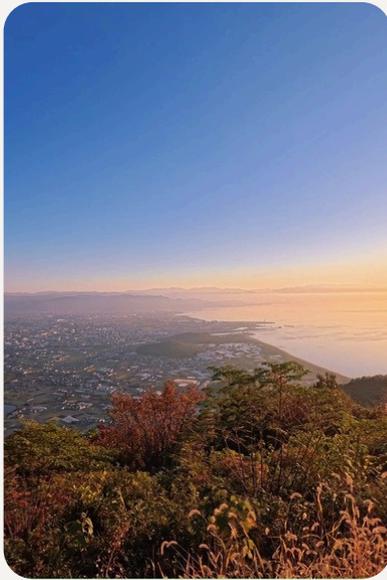


環境省

2025

内定者の声



はじめに

この度は「内定者の声」をご覧くださり、ありがとうございます。

こちらでは、環境省を志望する皆様に向けて令和8年度入省予定の一般職事務系（大卒程度）の内定者が作成した、内定に至るまでの体験談を紹介しております。

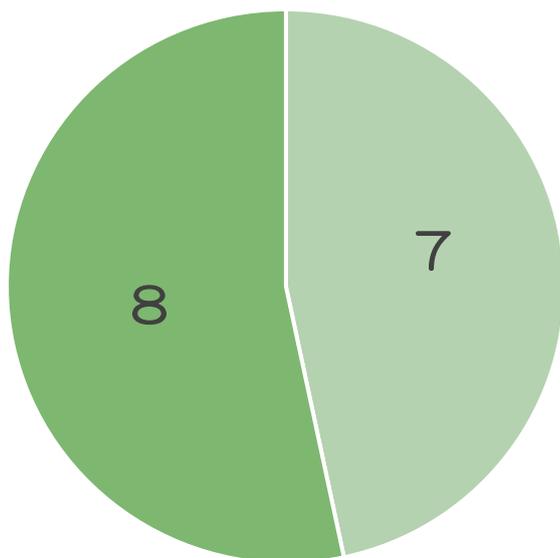
公務員試験の勉強方法や志望理由について内定者それぞれの経験や考え方をまとめておりますので、皆様の参考になれば幸いです。特に試験対策に関しましては、共通している部分もあれば各自工夫をした点もあります。様々なケースを見ることで、皆様の不安や疑問の解消に少しでもお役に立ち就職活動がより良い結果につながれば、体験談を作成した身として大変嬉しく存じます。

「内定者の声」をご覧になった皆様がご自身の夢に向かって進むことを内定者一同、心より応援しております。

内定者基礎データ（15人中）

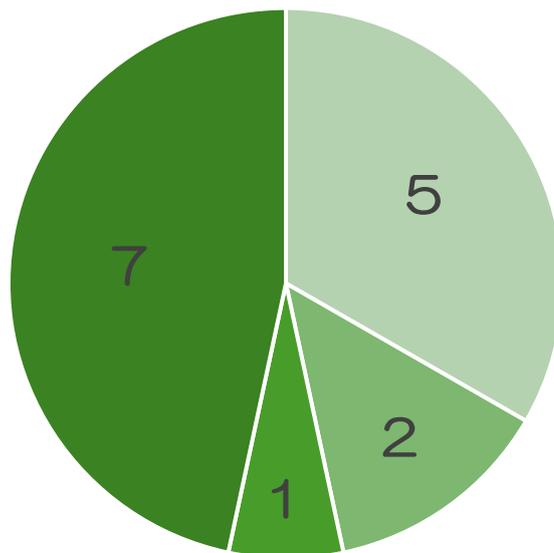
男女比

■ 男性 ■ 女性



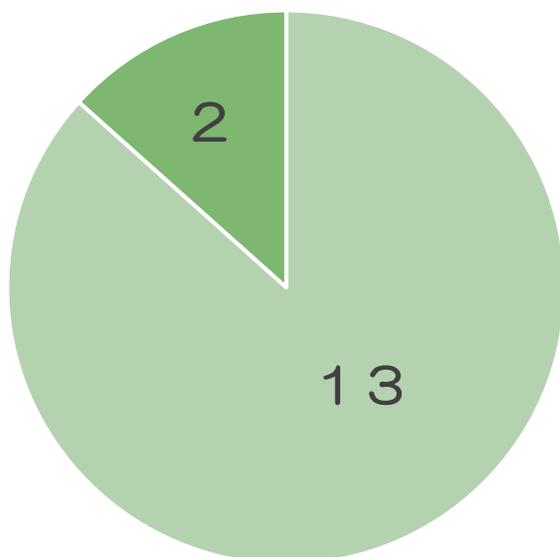
説明会参加回数 (対面・オンライン)

■ 1回 ■ 2回 ■ 3回 ■ 4回以上



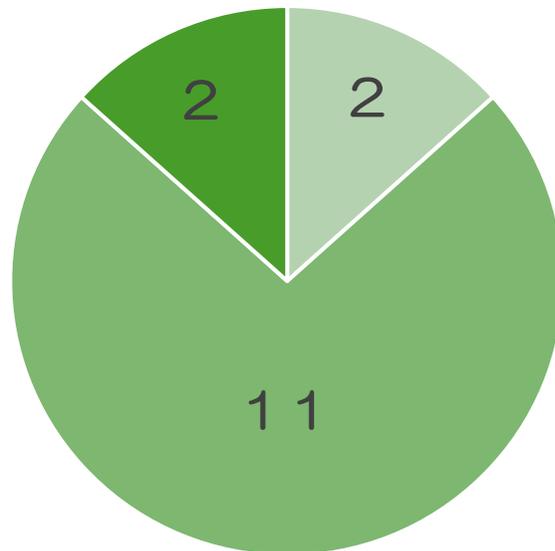
試験区分

■ 行政 ■ 教養



勉強方法

■ 独学 ■ 予備校 ■ 専門学校



官庁訪問参加日

7月2日（水）	6人
7月3日（木）	2人
7月4日（金）	4人
7月7日（月）	2人
7月8日（火）	1人

出身地

埼玉県 東京都 千葉県 茨城県
神奈川県 新潟県 岐阜県 山梨県
滋賀県 大阪府 広島県 鹿児島県

志望動機

内定者 A



私は山に囲まれた環境で育ってきたこともあり、自然の作り出す空気や季節によって変わる景色が大好きということから、環境問題に関心がありました。就活のタイミングで私自身が働きたいところはどこかを考えたときに、頭に浮かんだのが環境省でした。また、高校生の頃から公務員として働きたいという思いはあったので、実際に複数の省庁の説明会に参加したり、HPなどで取組を調べたりする中で環境省の業務のことを知り、より一層環境行政に関心を持ちました。環境問題に取り組んでいる省庁はほかにもありますが、環境問題を軸に取り組んでいる環境省で働きたいと思い、志望いたしました。

勉強方法

筆記試験

教養科目は、毎日1、2時間程度、数的処理に重点を置いて対策を行うようにしていました。

専門試験が苦手だったので、ひたすら問題集を繰り返し解くことに時間を費やしていました。

対策をして思ったことは、ただ全科目を勉強するのではなく、点を稼ぎたい科目など計画を立てて対策をすることが重要だと思いました。

面接試験

二次試験では、環境省でどんな取り組みを行っているかを調べていました。また、自分自身のエピソードは話したい内容を大まかに決めておく程度にしました。対策をしすぎずに、その時に聞かれたことを話せばいいくらいで臨んだ方が自然な会話で面接をすることができると思ったからです。

面接中は、聞かれたことに対して端的にわかりやすく答えることを意識していました。

出身地

山梨県

最終学歴

大学卒

趣味・特技

趣味：ロックバンド
カフェ巡り

特技：サッカー

内定者 B



出身地

岐阜県

最終学歴

大学卒業見込み

環境科学部

趣味・特技

趣味：読書、旅行

特技：手芸

志望動機

幼少期から自然に触れる機会が多く、農作業を手伝った経験から、気候変動による収穫量の変化や獣害被害等の環境問題を身近に感じ、強い危機感を持ちました。こうしたことから、大学で環境政策学を専攻しました。その中で、環境政策は独立した分野ではなく、農業や経済、教育など様々な分野と密接に関係していることを知り、政策を立案・運用するには、異なる分野の人の立場や利害を調整しながら進めていく必要があることを学びました。私は環境省の職員としてその調整役となり、関係団体や事業者などと協働しながら持続可能な社会の実現に貢献したいと思い環境省を志望しました。

勉強方法

筆記試験

基礎能力試験については、本番は時間との勝負になるため、自分の苦手分野を把握し、時間をかけるべき問題を瞬時に見極めることが大切だと感じました。

専門試験については、法律系や学系の科目は暗記のため、繰り返しアウトプットすることを意識しました。勉強中に間違えた問題は、その日の夜寝る前にもう一度解き直し、頭に残りやすいよう工夫しました。経済系の科目は、最初に理論を理解することを徹底していました。そのために、予備校の授業だけでは理解が難しいと感じた単元は YouTube の解説動画を探し、自分で説明できるまで何度も繰り返し見ました。一度、理論を理解しておくことで、同じ単元の類似問題にも対応できるようになり、数日後に問題を見直したときにもスムーズに解けるようになったと感じました。

面接試験

最も重視したのは、徹底した自己分析です。自分の強みや価値観を深く理解しておくことで、本番で緊張していても、志望動機や自己 PR を自信を持って話すことができたと感じました。また、大学や県が運営するキャリアセンターで、模擬面接を何度も受けました。複数の担当者に見てもらうことで、様々な視点からアドバイスを頂き、自分では気づくことができなかった話し方の癖や改善点を把握することができました。私は面接で話すことに苦手意識があり、表情や声が暗くなりがちでしたが、明るくハキハキ話す芸能人をイメージしながら同じように話せるよう工夫しました。

志望動機

内定者 C



↑ 地元のお寺に
居付いてしまった猫です

環境省を志望した理由は、環境保全・活用の推進を通じて、国民一人ひとりのウェルビーイングの実現に貢献したいと考えたからです。大学生活では、自然豊かな地域におけるフィールドワークを通して、多様な暮らしの豊かさだけでなく、それを阻む複合的な課題を肌で感じてきました。そのため、環境保全・活用を通じた「ウェルビーイング／高い生活の質」の実現を掲げる第六次環境基本計画のビジョンには強く共感でき、私も現場の人びとの暮らしを支える環境政策に携わりたいと考えるようになりました。

出身地

神奈川県

最終学歴

大学卒業見込
(社会学専攻)

趣味・特技

読書、スポーツ観戦

勉強方法

購入した問題集を繰り返し解いていました。間違っていた問題や解き方の分からない問題には印をつけ、重点的に復習するよう心掛けました。問題を繰り返し解いていくなかで、試験に対する自信も鍛えられていったように思います。

このように、問題集と丁寧に向き合う時間も大切である一方、「ながら時間」の活用も重要ではないかと考えるようになりました。そこで、通学する際には、ラジオやポッドキャストでニュース番組などを聞くよう習慣づけ、時事問題や論文試験に備えました。この習慣によって得られた知識は、面接でも十分に役立てることができたと思います。

志望動機

内定者 D



日本の豊かな自然を次世代に繋ぎたいという強い思いからです。私は幼少期から釣りや登山などで自然と深くふれあい、そこで緑や命に触れたことはかけがえのない経験でした。そうした経験から、自然と触れ合うことが人間の思いやりや感性を育てる上で大きな意味を持つと考えました。しかし、人間の活動を要因とした地球温暖化や生態系破壊により、この「当たり前」が失われかねない現状に危機感を抱きました。そこで、環境省職員として、国民一人ひとりの環境保護に対する意識改革と価値観を変える教育により、行政の力だけでは成しえない循環共生型社会の実現に貢献したいと考え、環境省を志望しました。

勉強方法

筆記試験

筆記試験の対策は予備校の講義を受講し、繰り返し問題を解いていました。その際、心がけていたことは完璧を求めないことです。一般的に公務員試験は6割取れば合格すると言われているため、満点ではなく最低6割を安定して取ることを目標にしていました。また、苦手な科目の勉強した後に癒しとして得意科目を勉強することで勉強へのモチベーションを持続させていました。

面接試験

二次試験の対策は主に大学のキャリアセンターを利用しました。その中で感じたことは、面接は話す内容もちろん重要ですが、それと同じくらいに挨拶返事も重要ということです。なぜなら、挨拶返事に大きな技術は必要ないのにも関わらず、はきはきとしているだけで好印象を与えられるからです。私と同じように緊張しい性格で面接が苦手な人は、はきはきとした挨拶返事だけは徹底することをおすすめします。

出身地

新潟県

最終学歴

大学卒業見込
(法学部)

趣味・特技

趣味：アウトドア、
スポーツ観戦

特技：スキー

志望動機

内定者 E



生まれも育ちも東京なのですが、祖父母の家や旅行で遠くに行く際に自然にたくさん触れて育ちました。綺麗で心が落ち着くような自然をこれからの人たちのために繋いでいけるよう環境に携わる仕事につきたいと思い、志望しました。説明会に参加するうちに、環境省が取り組むのは人々の暮らしや健康を支えるとても重要なことばかりだということを知り、国民の安心を作れる環境省の一員になりたいと強く思いました。また、職員の方々の雰囲気がよく、自分もここで働きたいと思ったのも正直な志望理由です。

勉強方法

筆記試験

予備校に通っていたので対面の講義とウェブの講義を科目ごとに分けて受けていました。

・教養試験

数的処理は講義（インプット）が完全に終わったのが11月くらいでした。そのあとは問題集をひたすら解くのですが、数的推理と判断推理は1日に6問ずつ、図形と資料解釈は1日3問ずつと分けて毎日のノルマを作っていました。文系のため苦手意識があったので、毎日必ず解くようにしていました。文章理解は現代文と英語を毎日2題ずつ解いていたので、勉強を始めた当初より速読、精読ができるようになったと思います。人文系と自然科学の物理と化学は勉強しませんでした。生物と地学のみ軽く勉強しました。時事対策は模試の問題を集めて読み込んでいました。

出身地

東京都

最終学歴

大学卒業見込み
（国際系の学部）

趣味・特技

旅行、料理、ネイルや編み物等の細かい作業



・専門試験

憲法、民法、行政法、ミクロ経済、マクロ経済の5つの科目は講義を年内に受け終わることを目標にしていました。結果的には経済は翌年の1月まで受けていました。年明けから本格的に問題集を解くようになり、1ヶ月で1周を目安に毎日全部の科目の問題を解いていました。3回以上正解した問題は4週目からは飛ばし、試験の直前だけ見直していました。

政治学、社会学、行政学は2月ごろから急いでウェブの講義を受け始め、問題集の解説に線を引きながら問題も解いていました。この時期は1日の勉強時間の半分はこれらの学系科目に費やしていました。

・論文試験

予備校で頂いた過去問を解き、講師の方に添削をしてもらいながら2024年12月から2025年の3月まで続けました。ペースとしては1~2週間に1つ作成しました。また、新聞も毎日読んで情報収集をしました。

面接試験

面接カードに書く内容は試験の年の2月くらいから考え始めました。自己PRや志望動機など自分がしてきた経験をやりたい仕事にどう活かせるかということ意識して書きました。私は今までちゃんとした面接を受けてきたことがなかったので、模擬面接とにかくたくさん行きました。予備校の面接練習会や大学のキャリアセンターをよく活用していました。もし予備校に通っていなかったらハローワークや無料で模擬面接をしてくださる民間団体のところへ行っていたと思います。数をこなしたことで緊張にも慣れたし、丸暗記ではなく自分の言葉で答えるということができるようになりました。

志望動機

内定者 F



ドライブをして山奥に行った際のものです。空気がとてもきれいでした♪



朝4時に見た景色はいつもと違った雰囲気です。惹き込まれました！

出身地

新潟県

最終学歴

専門学校卒業見込み
(法律学科)

趣味・特技

写真、ドライブ

幼い頃から環境に関わっていくなかで問題意識を持ったことがきっかけです。特に中学・高校時代に所属していた野良猫の保護から譲渡までを行うボランティアの活動では、劣悪な飼育環境にいたり酷いケガの猫たちを実際に保護したり環境問題を実際に目の当たりにしながら活動をする事が多かったです。その度に他に何か出来ることは無いのかと思いながら活動を行っていました。国家公務員を志望して、ホームページを見たり説明会に参加しお話を聞いたりするなかで昔の活動を思い出し、そこからより自分が取り組みたいことが鮮明になり、国の根本的な部分から生態系を守るための環境保護に携わりたいと思い環境省を志望しました。

勉強方法

筆記試験

とにかく分からないことはそのままにしない！を大切に問題を解いていました。基本的な勉強は専門学校のカリキュラムに従っていました。自主勉強ではインプットする時間とアウトプットする時間を分けて取り組み、忘れてしまってもすぐ思い出せるようにしたり、何度も何度も繰り返し解いて自分の忘れがちな部分を理解するようにしていました。

振り返ると、疲れているときに無理に勉強を頑張りすぎないことが長く続けていくうえで大切だと思いました！私は要領があまり良い方とは言えなかったので1年間という短い期間で公務員試験に合格するための知識を全て詰め込むのは自信が無かったのでボーダーを超えることを目標に勉強していました。自信のある科目を作っておくと過去問を解く際に下振れしない得点源になるので、ある程度すべて頭に入れるのはもちろんですが極める科目を作ってみるのもおすすめです！



↑実家の猫🐱
妹が作った絵を飾られて
不服そうです。

面接試験

面接は人と人の会話の場であることを特に意識していました。面接シートは自己紹介をしているものなので、それに沿いながら自分をアピールする場であると思い話していました。話す内容は自分の今までの学びや価値観、話し方や所作は人柄、など面接では1つひとつの行動全てが自分を表していると思ったので良いところが最大限伝わるように努力していたと思います。官庁訪問では、なぜ環境省でなくてはダメなのか、自分は何をするために入りたいのか、自分の人柄、がよく見られていたと思いました。

アドバイス

この内定者の声を読んでくださってるみなさんは現在公務員試験に向けて日々の勉強を続けられていることだと思います。長い間努力を続けていると、受験に近づくにつれて不安や焦り、やめてしまいたいという気持ちが溢れることがあると思いますが、そんな時はぜひ「なぜ目指し始めたか」を考えてください。決断をした時の気持ちはきっとみなさんのモチベーションとなって受験当日までの支えとなってくれると思います。最後まで駆け抜けて、後悔のない結果を得られることを願っています。頑張ってください！

志望動機

内定者 G



地球温暖化の影響を肌で感じる出来事を通してこのままでは次世代に豊かな自然を残せないという危機感を抱くようになり、環境を守るために自ら行動したいと考えるようになりました。そして、環境という社会の根底を支える業務に携わり、全ての世代が安心して暮らせる社会の実現に貢献したいと考えたため環境省を志望しました。

勉強方法

筆記試験

以前、公務員試験を受験した経験があったため、その頃に使用していたテキスト等を用いて勉強を始め、その後、公務員試験のための予備校に通いました。質も大事ですが最初は問題数をこなすようにしました。仕事をしながら対策を進めていたため効率よく勉強する必要があったので、定期的に模試形式で問題を解いて自身の苦手科目を認識し、その科目について重点的に対策をするように勉強方法を移行していきました。

面接試験

予備校の模擬面接を活用して、面接形式の受け答えに慣れるように努力しました。また、想定問答集を念入りに作り、どのような質問を受けても落ち着いて答えられるように準備しました。また、面接時には一方的に話すのではなく「面接官と会話をする」ということを意識しました。

出身地

滋賀県

最終学歴

既卒（2023年卒業）

外国語学部

趣味・特技

趣味：読書

ライブ鑑賞

特技：料理

内定者H



出身地

茨城県

最終学歴

大学卒

趣味・特技

趣味：ディズニー，映画鑑賞，ラーメン屋巡り

特技：整理整頓，掃除

志望動機

- ・ 次の世代や生物のために、私たちの生活に密接に関わる環境問題を解決したいため。
- ・ 特に地球温暖化を始めとする難しい問題に立ち向かいたいため。
- ・ もともと環境問題に興味があり、学生時代から環境問題に関する研究をしていたため。

勉強方法

筆記試験

- ・ 現職に就くために、数年前にいわゆる公務員試験の勉強をしていたため、今回は、過去問を反復し、苦手な問題をなるべくなくした。
- ・ 小論文については、時間がなく対策をしていない。

面接試験

【官庁訪問】

自分の気持ち、やりたいことを素直に話した。

【人事院面接】

想定問答を作成し、言いたいことを整理した。

志望動機

内定者！



国家の基盤たる環境分野の持続可能性に、職業として貢献できることに魅力を感じ志望しました。環境の変容はこれまで生きてきた短い人生の中でも如実に感じられ、次第に自分も何かしなければという意識が生まれてきました。目的意識と自分にできることとのすり合わせの末、事務職員として環境省という組織が円滑に回るよう働くことを選択しました。

加えて、官庁訪問の際の印象が良かったことも大きな理由です。比較的規模感の小さい官庁であることが自分の特性に合っているように感じられました。

勉強方法

筆記試験

大学で公務員講座を受講していました。勉強時間の確保が苦手であったため、とにかく対面講義に出席することだけを意識していました。

それぞれ得意分野と苦手分野がおりかと思しますので、勉強においても試験中においても、時間配分をしっかりと練ることが肝要かと思えます。

面接試験

地方在住のため説明会はオンラインでしか参加できませんでしたが、一般職の前に総合職で一度官庁訪問した経験がとても有意義でした。希望省庁が望む人材とはどのようなものであるか、自分はどのように役に立てるのか、両方の視点を大切にするようになりました。

ご縁のある就職先に出会えるよう、できることをなるべく多くやってみることが大切だと思います。

出身地

広島県

最終学歴

大学卒業見込

(工学部 環境工学専攻)

趣味・特技

趣味：ギター

音楽を聴く

特技：ダンス

志望動機

内定者 J



私が環境省を志望したのは、普及啓発活動を通じた資源循環業務に取り組みたいと考えたからです。きっかけは、私の研究分野である微生物を用いた資源循環があることを授業で学び、私の学びや体験を環境省で活かせるのではと考えました。

実際に微生物を用いた資源循環は家庭でも実践することができますが、なかなかその存在を知る機会はありません。

そのため学んだことを活かして普及啓発活動を行い国民一人ひとりが小さな取り組みから環境保全に参加できると実感してほしいと考えました。

勉強方法

筆記試験

教養科目は英語と国語を試験直前にそれぞれ1週間程度勉強することと、数的処理を毎日5問ほど解いていました。専門科目は広く浅くやるのが定石と言われていましたが、私自身に合わないので1科目ずつ深く勉強して8教科揃えました。法律科目で憲法と民法と行政法を選びましたが勉強法として、なぜ裁判所はこの判断を下したのかということを常に考えながら、1科目につき5周しました。

面接試験

面接対策として一番重要なのがガクチカ、長所短所、志望動機の3つがしっかり書けているかが重要だと思ったので、大学のキャリアセンターの方や複数の友人や先輩等、様々な人に添削してもらいました。面接本番のために友人、キャリアセンターの方が空いているときは積極的にお願いして、誰も空いていないときはChatGPTと面接練習をしていました。面接中に一番意識していたことはとにかく笑顔でいることです。

出身地

東京都

最終学歴

大卒見込み

趣味・特技

趣味：バスケットボールの観戦

特技：バスケットボール

内定者 K



出身地

奈良県

最終学歴

大卒

趣味・特技

趣味：旅行、ドライブ

特技：人見知りしない

志望動機

私が環境省を志望したのは、日本の人々の暮らしと自然環境の共生を実現する社会の構築に貢献したいという思いからです。特に今ある自然環境を後世に残していきたいと考えています。

勉強方法

筆記試験

筆記試験では、予備校に通って対策しました。私が法学部であったこともあり、経済系科目に特に力を入れて繰り返し問題を解いて理解を深めました。

面接試験

二次試験では、事前に面接練習や他の行政機関にて面接を行って、経験を積みました。また、面接官の方がにこやかでとても良い雰囲気だったので緊張せず話したいことが話せました。

志望動機

内定者 L



私が環境省を志望したのは、環境問題に国という大きなスケールで取り組みたいと考えたからです。幼少期から自然に親しみ、大学では環境問題への対策や生態学などを学びました。こうした学びを活かしたいと思い、環境省を志望しました。さらに、説明会でお話しした職員の方々の雰囲気に触れ、ここで働きたいという思いが一層強まりました。

勉強方法

筆記試験

筆記試験では、国家一般職試験の頻出分野を中心に問題集を繰り返し解きました。毎日各科目に1度は触れ、どの問題も自信をもって正解できるようになるまで反復することを意識して勉強しました。

面接試験

二次試験では、民間企業の就職活動で面接経験を積んでいたため特別な対策は行いませんでした。一方で、環境省の説明会には10回以上参加し、職員の方々のお話を通じて環境省の理解を深めました。

出身地

東京都

最終学歴

大学卒業見込み

趣味・特技

趣味：散歩、ダーツ、謎解き

特技：書道

志望動機

内定者 M



環境問題・地方創生・防災の3つに関心があり、それらに横断的に取り組む事ができるという理由で環境省を志望しました。小規模ながらも地震を経験したことなどを理由に小学生の頃から防災に関心があり、小学生のときは地震の仕組みなど、高校では海洋汚染について探究しました。高校では国際科に所属していたことから、学生時代に留学を経験する機会を得ました。留学を通して海外大学で学ぶうちに、気候変動が地域や立場によって生活に与える影響が大きく異なることを知り、環境問題は社会課題でもあると実感しました。これらの経験から、社会問題に直接取り組む事の出来る職につきたいと考え、国家公務員を目指すようになりました。もともと環境・防災に関わりたいと考えていたので、環境省だけを考えて受験しました。環境省の説明会では、脱炭素だけでなく多様な課題に柔軟に取り組む姿勢に共感し、「話好きが多くフラットな職場」という雰囲気にも惹かれました。一般職向けの説明会は回数が限られているので、総合職向けもぜひ参加してみてくださいね！

勉強方法

筆記試験

・教養試験

大学提携の講義を受けていました。国家一般職は数的処理の中でも判断推理が多く出題されるため、その部分を重点的に勉強しました。教養問題は日々の積み重ねが大事だと思うので、毎日各分野5問ずつ解いていました。私は文系で、英国が得意だったので、そこで満点を取れるよう、模試では心掛けていました。時事・情報については、直前に公務員試験対策のYouTubeなどで対策をしましたが、そこからはほとんど出題されなかったため、日ごろからニュースを見る(ニュースアプリなど)ことや、地方公務員試験でも出題されるような基礎知識をさらえておくのが良いと思います。

・専門試験

こちらも大学提携の講義を受けていました。私は法学部出身ではないため、憲法や行政法、経済学など公務員試験のメイン科目は全くわからない状態でのスタートでした。国家一般職は科目数が他に比べて多いので、併願先の科目を踏まえて先に選択しておくのが良いかなと思います。ちなみに私は経済学がちんぷんかんぷんだったのでそれを選択せずに済むところを併願先に選びました(笑)

さて、私が選択した科目をもとに勉強法を記述していきますが、やはり多くの時間を費やしたのは憲法・行政法、それについて政治学・民法です。勉強方法は、なるべく早く講義視聴を終わらせ、1冊の問題集を繰り返す方法でした。やみくもに問題集を周回するのではなく、講義でメモした教材を毎回振り返り、間違えた箇所と対策を自分のまとめとして

出身地

大阪府

最終学歴

大学卒(文系)

趣味・特技

趣味：カメラ・ハイキング

音楽ライブ参戦・旅行

特技：バイオリンを弾くこと



↑イエローナイフのオーロラ
バンフ国立公園↓



1冊の問題集を繰り返す方法でした。やみくもに問題集を周回するのではなく、講義でメモした教材を毎回振り返り、間違えた箇所と対策を自分のまとめとして作っていました。以上に挙げた4科目は問題集1冊を5~8周しました。何度も繰り返すと覚えてくるので、3日おきに問題に触れる感じでスケジュールを組んでいました。1科目を1カ月で1周する想定で、日割りにして勉強することを意識しました！

その他4科目は国際関係・社会学・教育学・英語基礎を選択しました。前3つは文系だとなじみやすい科目だと思うのでお勧めです。特に、社会学と政治学は暗記分野が被る部分もあったので気持ち楽に勉強できました。とはいえ覚える量が膨大なのには変わらないので、こつこつ継続して勉強しました。(1カ月で1周も同じ)

直前で行政学も勉強しましたが、結局試験当日は英語一般を選んだ(大正解でした)ので、過去問を解くときは英語までやっておくことをおすすめします。

過去問演習はだいたい2-3月から始め、1週間に1題くらいで回していました。似た問題の出し方・出題傾向をつかむことを意識していました。

面接試験

一番やっていて良かったなと感じることは、受験する1年前から説明会に参加することです！オンライン・対面問わず参加することで公務研究もできる上に面接時のアピールポイントが増えます(笑)実際の面接対策は5月から始めました。初めは、併願先の面接で話す内容や長さを練り、ひたすら練習しました。私は既卒だったので、大学のキャリアセンターを利用できず壁打ちばかりだったので、大学生の方はぜひ利用してフィードバックを受けてみてください。話す内容は、就活全般で聞かれる事柄を一つずつ起承転結を意識して作成しました。良い点だけでなく自分の足りない点や挫折経験についても聞かれることがあります、その時は率直に失敗経験を話し、最後にどうリカバーしたか、どんな学びがあったかについて述べると、マイナスな印象が軽減されると感じました。

話す内容も大事ですが、一番大事だと感じるのは話す姿勢・態度です。おどおどしてたり、覚えた内容をしゃべっているような硬い表情だと良さが伝わりにくいので、事前に作成したものを全部伝えようとするのではなく、おおまかにしゃべり、あとは面接官とのコミュニケーションの中で深掘っていったらいいのではないかと全ての面接通じて実感しました。自信をもって話すこと・面接官との会話を楽しむことがカギです🔑

内定者 N



出身地

埼玉県

最終学歴

大学卒業見込
(法学部法律学科)

趣味・特技

趣味：サイクリング
特技：ゴルフ

志望動機

今ある環境を保護・改善して未来まで残したいためです。近年、地球温暖化により自然環境が悪化しており生き物が将来まで残らない恐れがあります。私も幼少期は昆虫採集をすることが好きであり、この昆虫が将来まで残り続けると当たり前前に思っていました。

そのようなときに環境省の業務説明会に参加して、大規模な施策を多く実施している環境省ならば今ある環境の保護・改善を実現できると思い、環境省を志望しました。

勉強方法

筆記試験

試験勉強を始めたのは2024年4月頃です。公務員予備校に通い、そこでのカリキュラムに沿って勉強を進めました。場慣れもしたかったので2025年3月から本試験を受け始め、合計14個受けました。

・教養試験

自分の中で難易度を3段階に分けて問題を解く量を決めていました。難易度1の問題は簡単で解法も暗記したので量は少なめ。難易度2は解法を忘れがちで解く時間もかかるが、全く解けないわけではないので量を多くして対策。難易度3は本番で出ても無視する。私の場合は図形でした。試験直前は難易度2を解く量が多かったです。

・専門試験

まずは、2025年1月までに練習問題で法律系科目をそれぞれ7割取れることを目標としました。問題を解く量はここが一番多かったです。次いで、ミクロ・マクロ経済学、政治学、行政学、財政学、国際関係を少しずつ勉強しました。こちらは本番のときに法津系科目で点を取れなかった際の保険としての科目でした。

・論文試験

予備校で頂いた過去問を解き、講師の方に添削をしてもらいながら2024年12月から2025年の3月まで続けました。ペースとしては1~2週間に1つ作成しました。また、新聞も毎日読んで情報収集をしました。

面接試験

予備校や大学のキャリアセンターで面接練習をしました。2025年4月から続け、1次試験の合格後も定期的に行うことで自然な会話になるよう改善していきました。結論ファーストで簡潔に述べるのが最も重要であったと振り返ってみて思います。

アドバイス

こちらで記載したことは一例ではありますが、予備校に通っていらっしゃる方はその予備校のテキストを繰り返し解き、書店で新たに問題集を買う必要は無いかと思います。私の場合は多くの問題集があるとどれを信頼して良いか分からなくなってしまうので新規の購入はしなかったです。自分の信頼した問題集や勉強法で自信を身に付けてください。応援しています！

内定者〇



出身地

鹿児島県

最終学歴

専門学校卒

趣味・特技

趣味：美味しいもの巡り

スポーツ観戦

特技：臨機応変に対応できる

志望動機

自然と社会の共生を実現するために正面から向き合いたいと考えたからです。

私は自然に囲まれた環境で生まれ育ち、幼少期から祖母と地域の清掃活動に取り組んできました。その中で、身近な自然が人の行動次第で守られも損なわれもすることを実感してきました。このような経験から、環境問題は一人ひとりの暮らしと密接に関わる課題であり、個々人の善意だけでは限界があり、社会の仕組みとして取り組む必要があると感じるようになりました。

自然と社会の共生を制度面から支え、政策の円滑な実施に携わる立場として貢献することが出来ると考え、環境省を志望しました。

勉強方法

筆記試験

筆記試験対策では、専門学校での1年間の学習と過去門演習を中心に取り組みました。朝晩は暗記科目、日中は数的処理などの計算問題を解くことで効率的に学習を進めました。

また、苦手科目に関して、完全に捨てることはせず「この形式なら解ける」という問題を複数用意しつつ、他科目で得点を伸ばす方針を取りました。年度によって科目ごとの難易度は異なるため、最後まで諦めずに解き続けたことが合格につながったと感じています。

面接試験

面接試験対策では、自己分析や過去経験の整理、想定質問への回答をまとめるなど事前準備を重ねました。そのうえで構えすぎず、素直に自分の思いを伝えることを意識しました。また、話が長くなる癖があったため、要点を簡潔に述べる練習も行いました。

官庁訪問や面接試験は、私の話を聞いてくださる面接官の方々に感謝しながら臨みました。面接中に助言をいただく機会も多く、次の面接へ活かし、改善と成長を重ねました。

おわりに

「内定者の声」を最後までお読みいただき、ありがとうございます。

本冊子は、令和8年度環境省入省予定の一般職事務系（大卒程度）内定者が、それぞれの思いを持って環境省を志した取り組みの過程をまとめたものです。

就職活動には不安や迷いがつきものですが、本冊子に掲載した内定者の経験や工夫が、環境省を志望する皆さまにとって新たな気づきや選択肢となり、道しるべの一つとなれましたら幸いです。

また、環境省では説明会やSNSでも採用情報を発信しています。ぜひ活用しながら理解を深めていただけたらと思います。

最後になりますが、環境省に関心を寄せ、挑戦し続ける皆さまが、悔いの残らない結果を掴み取れるよう心より願っております。